

1 研究主題

自ら学びを創る子どもの育成（4年次）

2 主題設定の理由

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月26日 中央教育審議会）では、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められている。また、「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）」（文部科学省初等中等教育局教育課程課）では、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をすることが重要だとされている。更に、本校では、令和7年度に第2・3学年が複式学級となり、令和9年度には、完全複式学級となることが見込まれている。子どもたちには、特に主体的に学習を進めていく力、友達と協力し合って学習する力の育成が求められる。

本校は、令和4年度から3年間、研究主題を「自ら学びを創る子どもの育成～自己調整力を育む授業づくり～」と設定し、「学びのプラン」を子どもたちと共有することで、単元全体の見通しを持ちながら学習を進める姿が見られた。また、学習方法を自分で選択して学びを進める場を整えたことで、自分に合う学習方法を決めて学ぶ力が育ってきた。

一方で、自分で調べたり友達と相談したりする前に、大人に頼って助けを求める姿や、自分の目標や見通しを考えられない姿が見られ、主体的に学びを進めていけるようになるには、更なる手立てを考えていく必要がある。また、自分の考えを発表できても相手の考えに返答できず、個々の考えの発表会で終わってしまい、より深い学びを生むための対話に至らない姿も見られた。

そこで、今年度は、昨年度と同様に研究主題を「自ら学びを創る子どもの育成」と設定し、学習に主体的に取り組み、自分たちで学びを進めていく子どもの育成を目指す研究をより一層進めたい。また、今年度は、「対話」にも着目したい。対話を通して考えを広げ深め、自ら学びを創る子どもの育成を目指していきたい。

3 研究の内容

（1）研究教科

算数科に絞って、研究を進める。

（2）研究の視点

- ①他者との対話を通し、自らの考えを広げ深めるための手立て
- ②自分に合う学習方法や工夫を選択・決定して、学びを深めるための手立て
- ③目標や見通しを考えて粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるための手立て

4 研究の方法

(1) つけたい資質・能力を明確にした授業づくり

本校の「育成を目指す3つの資質・能力」である、「人を大切にする力（尊重）」「考え、行動する力（自律・創造）」「やりぬく力（挑戦）」に沿って、低学年・中学年・高学年・特別支援学級のブロックごとに、つけたい資質・能力を設定する。そして、学期末にブロックごとに、子どもたちの変容について振り返る。

(2) カリキュラムマネジメント表の作成

昨年度と同様の形式で、学期ごとに短期カリキュラムマネジメント表を作成する。ブロックごとのつけたい資質・能力を受けて、算数科についてより具体的な資質・能力を学習指導要領をもとにして考え、設定し、明記する。

(3) 手だての積み重ねによる全体構想図の作成

研究の視点に沿って、授業実践を積み重ねる。授業研究会や日常の授業の中での子どもの姿を見取り、それぞれの視点にそって有効であった手だてを追記していき、全体構想図を作っていく。

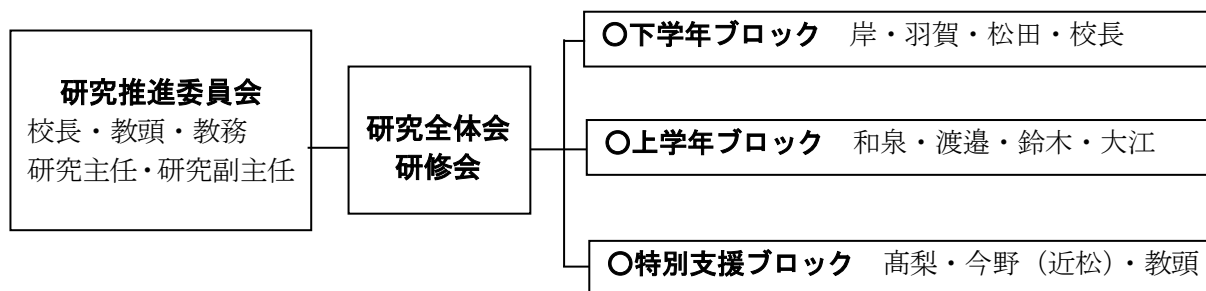
(4) 授業研究会・研修会

- ・研究について共通理解するために、各学級1回の授業研究会を行う。事前研究会はブロックで行う。事後研究会は全体で行う。

◆第1回授業研	6 / 30 (月)	6年	4年	指導主事要請
◆第2回授業研	9 / 30 (火)	2・3年	5年	指導主事要請
◆第3回授業研	11 / 4 (火)	1年	6年	指導主事要請
◆第4回授業研	12 / 12 (金)	さくらんぼ学級	せせらぎ学級	指導主事要請

- ・研究を深めるために、外部講師を招いた研修会を行う。(6 / 16)

5 研究の組織



6 研究全体構想図

